作成者:中村　康彦

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
衛生管理		美容学科／2年	2025年前期	講義
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30単位時間)	必須	中村　康彦

授　業　の　概　要

生活の中に関連する疾病の原因も歴史から紐解き、法律と人が貢献している過去を知る。微生物の種類・構造・生態・特徴を理解し、感染症についても学修する。併せて自分自身でできる予防法も考察する。

授業終了時の到達目標

感染症の原因である微生物の理解をすることにより、感染症罹患者及び生活環境に対して、適切な対処方法を取ることができるようになる。新興感染症・再興感染症に関しても理解を深め、これらの理解に基づき、安全で適切な接客方法が考え付くよう修得する。

実務経験有無	実務経験内容
無	薬剤師

時間外に必要な学修

講義ノート等により、予習・復習につとめ、授業の習熟を図ること。

回	テ　ー　マ	学修内容
1	衛生管理技術 消毒法総論①	消毒とはどういうものか　理容・美容の業務と消毒 消毒法と適用上の注意　　消毒法総論まとめ
2	衛生管理技術 消毒法総論②	理学的消毒法（殺菌法）煮沸消毒・蒸気消毒・紫外線消毒について理解を深める。
3	衛生管理技術 消毒法各論①	化学的消毒法（殺菌法）アルコールによる消毒・次亜塩素酸ナトリウムによる消毒について理解を深める。
4	衛生管理技術 消毒法各論②	化学的消毒法（殺菌法）界面活性剤による消毒・グルコン酸クロルヘキシジンによる消毒について理解を深める。
5	衛生管理技術 消毒法各論③	すぐれた消毒法とその実施上の注意点について理解を深める。
6	衛生管理技術 消毒法各論④	理学的消毒法・化学的消毒法についての確認テスト
7	衛生管理技術 消毒法各論⑤	消毒薬の概要・器具の使い方・希釈法について学ぶ。
8	衛生管理技術 消毒法実習①	理容所・美容所の消毒について理解する。
9	衛生管理技術 消毒法実習②	衛生管理について総まとめ　　確認テスト
10	衛生管理技術 衛生管理の実践例	理容所・美容所における衛生管理要領、目的から衛生的取り扱い・消毒から自主的管理についてまで学ぶ。
11	衛生管理技術	消毒の目的から実践までのまとめ・確認テスト
12	衛生管理全般	公衆衛生・環境衛生についての総まとめ 国家試験に対応できるように問題の解答と解説を行う
13	衛生管理全般	感染症・衛生管理技術についての総まとめ 国家試験に対応できるように問題の解答と解説を行う
14	衛生管理全般	衛生管理全般についての総まとめ 国家試験に対応できるように問題の解答と解説を行う

15	衛生管理全般	衛生管理全般についての総まとめ 国家試験に対応できるように問題の解答と解説を行う

教科書・教材	成績評価の方法	評価率	授業時間外の学修
衛生管理 公益社団法人　日本理容美容教育センター	期末試験 確認テスト	70.0% 30.0%	授業の前後には、予習復習をして習熟を図る事。

作成者:小島　光世

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
保健		美容学科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30単位時間)	必須	小島　光世

授　業　の　概　要

これから学ぶ「保健」は「健康を保つ」という意味です。健康には身体的な意味のほかに、精神的、社会的な健康という面もあります。非常に多面的ではありますが、この授業では人間の美の源泉ともいえる身体的な健康について学んでいきます。理容師・美容師は、頭や顔を中心とする人間の美と健康に携わる保健衛生分野の職業なので、一般の人以上に解剖学や生理学に関する知識を深めていきましょう。

授業終了時の到達目標

第1編では、人体の構造や機能を全体的に学びその知識を習得することを目標とします。
第2編では、理容師・美容師の皮膚や毛髪に鋭利な刃物や薬品などを使用する業務の特徴から、とくに皮膚や毛髪に関する深い知識を学び習得することを目標とします。

実務経験有無	実務経験内容
有	美容サロンで20年近く、運営及び経営に従事する。

時間外に必要な学修

まずテキストを読み、技術を積み重ねる大きな流れを把握すること。
講義ノート等により、予習・復習につとめ、授業の習熟を図ること。

回	テ　ー　マ	内　　容
1	第2編第4章　皮膚と皮膚付属器官の生理機能	対外保護作用、体温調節作用について学修する。
2	第2編第4章　皮膚と皮膚付属器官の生理機能②	知覚作用と皮膚反射、分泌排泄作用について学修する。
3	第2編第4章　皮膚と皮膚付属器官の生理機能③	呼吸作用、吸収作用、貯蔵作用、免疫・解毒・排除作用、再生作用、毛、爪のはたらきについて学修する。
4	第2編第5章　皮膚と皮膚付属器官の保健	皮膚と全身状態、精神、栄養、し好品、体内病変について学修する。
5	第2編第5章　皮膚と皮膚付属器官の保健②	皮膚の水分と脂の状態、皮膚・付属器官とホルモンについて学修する。
6	第2編第5章　皮膚と皮膚付属器官の保健③	皮膚の保護と手入れ、毛・爪の保護と手入れ、子どものおしゃれによる皮膚トラブルについて学修する。
7	第2編　4章～5章　まとめ	確認テスト　出題範囲(P94～P129) テスト後、解答・解説。
8	第2編第6章　皮膚と皮膚付属器官の疾患	皮膚の異常とその種類、皮膚疾患の原因、皮膚疾患の治療法について学修する。
9	第2編第6章　皮膚と皮膚付属器官の疾患②	皮膚炎と湿疹・蕁麻疹・薬疹について学修する。
10	第2編第6章　皮膚と皮膚付属器官の疾患③	口唇の疾患、温熱・寒冷による皮膚障害、角化、色素異常による皮膚疾患について学修する。
11	第2編第6章　皮膚と皮膚付属器官の疾患④	血管腫(アカアザ)、脂腺母斑、下肢静脈瘤について学修する。
12	第2編第6章　皮膚と皮膚付属器官の疾患⑤	分泌異常、化膿菌、ウイルス、真菌による皮膚疾患について学修する。
13	第2編第6章　皮膚と皮膚付属器官の疾患⑥	衛生害虫による皮膚疾患、感染症の皮膚疾患の予防、毛と爪の疾患、皮膚の腫瘍について学修する。
14	第2編第6章　まとめ	確認テスト　出題範囲 テスト後、解答・解説。

15	第1編第2編　まとめ	確認テスト　出題範囲 テスト後、解答・解説。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
保健　公益社団法人　日本理容美容教育センター	確認テスト 期末試験	30.0% 70.0%	講義ノート等により、予習・復習につとめ、授業の習熟を図ること。

作成者:越川　司朗

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
香粧品化学		美容学科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	授業時数／単位	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30単位時間）	必須	越川　司朗

授　業　の　概　要

理容・美容の技術を行う際、器具と同様に多用するものが香粧品です。
香粧品とはシャンプー剤、スキンケア剤、カラーリング・パーマ剤等のことで、これらはお客様の髪、肌、爪などの様々な部位において直接使用します。そのため使い方によっては重大な損傷をあたえる事故につながることもあります。この授業では美容師として必要な、香粧品の性状や使い分け、社会的な意義や法的な根拠、安全性をどのように担保しているかというところまで学んでいきます。

授業終了時の到達目標

香粧品の原料や配合などの成り立ち、性状、使用目的のほか、どのような薬品が香粧品に属するのか、その定義、社会的意義や特性、法的な根拠、製品の安定性も含めた安全性についての知識を習得する。
なお、つけまつ毛やまつ毛エクステンション、つけ爪等のネイル製品は香粧品ではないが、身体に直接装着するものであり、つけ外しの容易な装飾品とは異なり香粧品に準ずるものです。そのため、これらについても香粧品と同様に材料と使用方法について知識を習得していきます。

実務経験有無	実務経験内容
無	

時間外に必要な学修

まずテキストを読み、香粧品を学ぶ大きな流れを把握すること。
講義ノート等により、予習・復習につとめ、授業の習熟を図ること。

回	テ　ー　マ	学修内容
1	第2編　香粧品各論 第1章 1節 2節	クレンジング香粧品について学修する。
2	3節　コンディショニング用香粧品	クリーム・乳液、その他の基礎香粧品について学修する。
3	4節　トリートメント用香粧品	トリートメント用香粧品の種類と特性，機能などについて学修する。
4	第2章　メイクアップ製品 1節　2節　3節	ポイントメイクアップ香粧品，特にベースメイクアップを中心に学修する。
5	4節 5節 6節　7節	ポイントメイクアップ香粧品，特に目周辺・爪ついて学修する。
6	1章・2章　まとめ	確認テスト　出題範囲（P97～P146） テスト後、解答・解説。
7	第3章　ヘアケア、ヘアメイクアップ及びスキャルプケア製品 1節　2節	ヘアコンディショニング香粧品について学修する。
8	3節　ヘアスタイリング料	スタイリング料について学修する。
9	4節　パーマ剤	パーマ剤について学修する。
10	4節　パーマ剤（続き） 5節　ヘアカラー製品	パーマ剤について学修する。 ヘアカラー製品について学修する。
11	5節　ヘアカラー製品（続き） 6節　スキャルプケア製品	ヘアカラー製品について学修する。スキャルプケア製品について学修する。
12	6節　スキャルプケア製品（続き） 3章学習内容のまとめ	スキャルプケア製品について学修する。 学修内容総括
13	3章　まとめ	確認テスト　出題範囲（P147～P186） テスト後、解答・解説。
14	第1編　まとめ	確認テスト　出題範囲（P9～P95） テスト後、解答・解説。

15	第2編　まとめ	確認テスト　出題範囲(P97～P186) テスト後、解答・解説。

教科書・教材	成績評価の方法	評価率	授業時間外の学修
香粧品化学 (公社)日本理容美容教育センター	確認テスト 期末試験	30.0% 70.0%	講義ノート等により、予習・復習につとめ、授業の習熟を図ること。

作成者:泉谷　愛子

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
文化論		美容学科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30単位時間）	必須	泉谷愛子

授　業　の　概　要

人の歴史の最古から、理容、美容がかかわってきたことを学ぶことは、今を知るためにとても重要である。日本と西洋、それぞれの歴史の中にみる理容、美容は、各時代の人々が、どのような時代背景の中で、どのような美しさを求めたのかを知ることができる。これらの知識が今求められている「美しさ」の意味を知る手掛かりとなることを学修する。

授業終了時の到達目標

ここで学ぶ文化論の中には、コンセンスを得るためのヒントや、創造の幅を広げるエッセンスが多く存在している。現代美容までの歴史の背景を理解し説明もできる。

実務経験有無	実務経験内容
有	美容サロンで15年以上サロンの運営及び経営に従事する

時間外に必要な学修

講義ノート等により、予習・復習につとめ、授業の習熟を図ること。

回	テ　ー　マ	内　　容
1	日本の理容業、美容業の歴史	日本のあらましを知り、現代の理容、美容師がどのように確立されたかを学修する。
2	ファッション文化史　日本編 縄文、弥生、古墳時代	日本列島に人が住みはじめたのは、今から4万年ほど前の氷河期。当時の発掘資料や文献から学修する。
3	ファッション文化史　日本編 近代	幕末～明治時代　髷から断髪へ。文明開化の始まりを学修する。
4	ファッション文化史　日本編 近代	明治時代の美容文化について学修する。
5	ファッション文化史　日本編 近代	大正時代の美容文化について学修する。
6	ファッション文化史　日本編 近代	戦時体制が強化されている時期のヘアスタイルやファッションについて学修する。
7	ファッション文化史　日本編 近代	戦時体制が強化されている時期のヘアスタイルやファッションについて学修する。
8	ファッション文化史　日本編 近代	戦時体制が強化されている時期のヘアスタイルやファッションについて学修する。
9	ファッション文化史　日本編 現代Ⅰ	欧米文化が色濃く表れている終戦後の昭和時代について学修する。
10	ファッション文化史　日本編 現代Ⅱ	1960年以降の美容に関する流行について学修する。
11	ファッション文化史　日本編 現代Ⅲ	1970年以降の美容に関する流行について学修する。
12	ファッション文化史　日本編 現代Ⅳ	1980年以降の美容に関する流行について学修する。
13	ファッション文化史　日本編	1990年～2000年以降の美容に関する流行について学修する。
14	礼装の種類①	和装の礼装について学修する。

15	礼装の種類②	洋装の礼装について学修する。

教科書・教材	成績評価の方法	評価率	授業時間外の学修
文化論 (公社)日本理容美容教育センター教科書	確認テスト 期末試験	20.0% 80.0%	前回の復習を行う 小テストの問題は全問正解できるようになるまで反復練習する

作成者:泉谷　愛子

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
美容技術理論		美容学科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30単位時間)	必須	泉谷　愛子/表　康子

授　業　の　概　要

美容技術においての知識を衛生的、能率的に実践する態度と習慣を養い、工夫と創造の能力を身につけさせる。美容器具の正しい取り扱いの方法と美容の基礎的技術を実際に即して指導し習熟させる。優れた美容技術は、経験によってだけ得られるものではなく、科学的合理的な方法によって把握されなければならないことを強調する。美容技術においての知識を科学的、サービスを実践する基本と態度を学修、工夫と創造の能力を身につけさせる。

授業終了時の到達目標

美容師国家試験合格。美容師としての必要知識と同時に衛生分野である事を意識した仕事が出来るようになる。

実務経験有無	実務経験内容
有	美容サロンで15年以上運営及び経営に従事する

時間外に必要な学修

実習の前後には予習復習をして習熟を図ること。

回	テ　ー　マ	内　　容
1	エステティック①	エステティックの概論、皮膚の生理と構造を理解する。 カウンセリングの大切さを知る
2	エステティック②	マッサージ理論、マッサージの基本手技 相モデルでの実践練習
3	エステティック③	フェイシャルエステティック、ボディエステティッ エステティックのまとめ（小プリントの回答と解説）
4	ネイル技術①	ネイル技術の総論、ネイルの教材の種類、 爪の構造と機能の理解フェイシャルエステティック、ボディエステティッ エステティックのまとめ（小プリントの回答と解説）
5	ネイル技術②	前回の復習も兼ねた爪の構造と機能を修得する
6	ネイル技術③	アーティフィシャル技術と道具の名称
7	ネイル技術④	アーティフィシャルネイル技術の手順
8	ネイル技術⑤	手と足のマッサージを修得する ネイル技術のまとめ（小プリントの回答と解説）
9	メイクアップ①	メイクアップの総論、皮膚の構造、メイクアップ道具を学修する
10	メイクアップ②	ベースメイクとファンデーションの基礎知識を修得する
11	メイクアップ③	アイメイクアップとまつ毛エクステンションの基礎知識の修得する
12	メイクアップ④	メイクアップ技術のまとめ（小プリントの回答と解説
13	日本髪①	日本髪の由来、各部名称を覚える 日本髪の装飾品と日本髪の結髪技術の知識を学修

14	日本髪②	日本髪のまとめ（小プリントの回答と解説）
15	日本髪③	日本髪のまとめ（小プリントの回答と解説） 期末テスト対策

教科書・教材	成績評価の方法	評価率	授業時間外の学修
美容技術理論2（公益財団法人　日本理容美容教育センター）	確認テスト 期末試験	20.0% 80.0%	前回の復習を行う 小テストの問題は全問正解できるようになるまで反復練習する

作成者:泉谷　愛子

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
美容技術理論		美容学科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30単位時間)	必須	泉谷　愛子

授　業　の　概　要

美容技術においての知識を衛生的、能率的に実践する態度と習慣を養い、工夫と創造の能力を身につけさせる。美容器具の正しい取り扱いの方法と美容の基礎的技術を実際に即して指導し習熟させる。優れた美容技術は、経験によってだけ得られるものではなく、科学的合理的な方法によって把握されなければならないことを強調する

授業終了時の到達目標

美容師国家試験合格。美容師として必要知識と同時に衛生分野である事を意識した仕事が出来るようになる。

実務経験有無	実務経験内容
有	美容サロンで15年以上運営及び経営に従事する

時間外に必要な学修

講義ノート等により、予習・復習につとめ、授業の習熟を図ること。

回	テ　ー　マ	内　　容
1	着付けの理論と技術①	気付けの目的、礼装の種類 帯の種類と小物の名称を知ってもらう
2	着付けの理論と技術②	着物各部名称、着物のたたみ方、着付けの一般要領の理解
3	着付けの理論と技術③	婚礼着付けの注意事項を知ってもらう 和装花嫁、洋装花嫁
4	着付けの確認テスト 技論2の総まとめ	練習問題を通して着付けのまとめをしていく 国試対策をする
5	確認テスト① 国家試験対策	カッティング、パーマネントウェービング、ヘアカラーリングの解答解説
6	確認テスト② 国家試験対策	ヘアセッティング・エステティック概論・ネイル技術・メイクアップ・着付けの解答解説
7	確認テスト③ 国家試験対策	総合復習
8	確認テスト④ 国家試験対策	総合復習
9	確認テスト⑤ 国家試験対策	総合復習
10	確認テスト④ 国家試験対策	総合復習
11	確認テスト③ 国家試験対策	総合復習
12	確認テスト④ 国家試験対策	総合復習
13	確認テスト③ 国家試験対策	総合復習

14	確認テスト④ 国家試験対策	総合復習
15	確認テスト④ 国家試験対策	総合復習

教科書・教材	成績評価の方法	評価率	授業時間外の学修
美容技術理論2（公益財団法人　日本理容美容教育センター）	確認テスト 期末試験	30.0% 70.0%	前回の復習を行う 小テストの問題は全問正解できるようになるまで反復練習する

作成者:泉谷愛子

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
美容実習（ワインディング）		美容学科／2年	2025／前期	実習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30単位時間）	必須	田中美紀/水本健一/泉谷愛子/表康子

授　業　の　概　要

美容技術の基礎、応用を実習を通して体得していく。理論と知識を活用し、裏付けのあるものにする。
前期はワインディング技術に加え、オールウェーブセッティング技術・カッティング技術の修得の為特にワインディング技術に特化した技術を学修する。なお3課題は、美容師国家試験課題に含まれる。

授業終了時の到達目標

国家試験の合格を念頭に置きながら、サロンワークに活用できる技術が身に付く。
衛生の技術を向上・修得を実現する。定期的な技術チェックを受けワインディングの技術が向上する。評価基準に基づき、能力が身に付く。

実務経験有無	実務経験内容
有	田中は美容サロンで5年以上運営及び経営に従事する 泉谷・表は美容サロンで15年以上運営及び経営に従事する 水本は美容サロンの店長として5年以上サロンの運営及び経営に従事する。

時間外に必要な学修

実習の前後には予習復習をして習熟を図ること。

回	テ　ー　マ	内　　容
1～2	国家試験第2課題 ワインディング(22分)①	ブロッキング2分・1本22秒巻き・ロッド両端の毛束の状態、シェープの角度、方向・スライス線・構成の練習。毛幅を広く巻き上げるために指の使い方を考える。
3～4	国家試験第2課題 ワインディング(22分)②	ブロッキング2分・1本22 秒巻き・ロッド両端の毛束の状態、シェープの角度、方向・スライス線・構成の練習。毛幅を広く巻き上げるために指の使い方を考える。
5～6	国家試験第2課題 ワインディング(20分)③	ブロッキング2分・1本20秒巻き・ワインディング18分 タイム内に仕上げることと、ベースの中心とロッドの中心が接点になるように巻く。
7～8	国家試験第2課題 ワインディング(20分)④	ブロッキング2分・1本20秒巻き・ワインディング18分 タイム内に仕上げることと、ベースの中心とロッドの中心が接点になるように巻く。
9～10	国家試験第2課題 ワインディング(20分)⑤	全頭通して20分でタイム計測。シェープの角度、方向・ロッド両端の毛束の状態、スライス線・構成の練習。
11～12	国家試験第2課題 ワインディング(20分)⑥	全頭通して20分でタイム計測。シェープの角度、方向・ロッド両端の毛束の状態、スライス線・構成の練習。
13～14	【定期チェック1】国家試験第2課題ワインディング(20分)⑦	中間試験の実施。全頭20分。シェープの角度、方向・ロッド両端の毛束の状態・スライス線・構成の考察。
15	【定期チェック2】国家試験第2課題ワインディング(20分)⑧	期末試験の実施。全頭20分。シェープの角度、方向・ロッド両端の毛束の状態・スライス線・構成の考察。

教科書・教材	成績評価の方法	評価率	授業時間外の学修
美容実習1　公益社団法人　日本理容美容教育センター	定期チェック 定期試験	30.0% 70.0%	

作成者:泉谷愛子

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
美容実習（オールウェーブ）		美容学科／2年	2025／前期	実習
授業時間	回数	授業時数／単位	必須・選択	担当教員
90分	45回	3単位（90単位時間）	必須	田中/水本/泉谷/表

授　業　の　概　要

美容技術の基礎、応用を実習を通して体得していく。理論と知識を活用し、裏付けのあるものにする。☒
前期はワインディング技術に加え、オールウェーブセッティング技術・カッティング技術の修得の為特にオールウエーブセッティング技術に特化した技術を学修する。なお☒課題は、美容師国家試験課題に含まれる。

授業終了時の到達目標

国家試験の合格を念頭に置きながら、サロンワークに活用できる技術が身に付く。
衛生の技術を向上・修得を実現する。☒期的な技術チェックを受けオールウエーブセッティングの技術が向上する。評価基準に基づき、能力が身に付く。

実務経験有無	実務経験内容
有	田中は美容サロンで5年以上運営及び経営に従事する 泉谷・表は美容サロンで15年以上運営及び経営に従事する

時間外に必要な学修

実習の前後には予習復習をして習熟を図ること。

回	テ　ー　マ	学修内容
1～☒2	オールウェーブ概要・解説・ウイッグ仕込み	今後の作業、仕込みが行いやすいように理論解説。☒ 今後の学修に向けてウィッグの仕込みを行う
3～☒4	作業の基本の学修 半円シェープとリッジ	道具のセッティングの仕方、ローションの塗布、コームの使い方を学び、半円シェープとリッジの作り方について学修する。
5～☒6	スカルプチュアカールについて	半円シェープとリッジの作り方を復習し、スカルプチュアカールの作り方について学修する。
7～☒8	フィンガーウエーブ	フィンガーウェーブの作り方を学修する。
9～☒10	オールウエーブセッティングの構成の説明、1段目までを作成	１パート７段構成について理解し、オールバックの仕方、１段目の作成について学修する。
11～☒12	１段目、２段目の作成	1段目から２段目の作成について学修する。
13～☒14	１段目～３段目の作成	前回までの復習をし、３段目までの作成について学修する。
15～☒16	３段目までの復習とフィンガーウェーブの作成	３段目までの作成を振り返り、サイドのフィンガーウェーブも併せて作成する。
17～☒18	【定期チェック１】３段目＋サイドウェーブ	ここまでの復習を行い、３段目＋サイドのウェーブの作成についてのチェックを行う。35分
19～☒20	４段目、５段目の作成	これまでの作成方法の復習と、新たに４段目、５段目の作成について学修する。
21～☒22	６段目、７段目	これまでの作成方法の復習と、新たに６段目、７段目の作成について学修する。
23～☒24	全頭練習	１段目から７段目を通して作成し、全体のバランスを学修する。
25～☒26	【定期チェック２】 全頭練習	ここまでの復習を行い、７段すべての作成についてチェックを行う。60分
27～☒28	オールウェーブ実践（50分）	５０分を計測して1段目から7段目まで通して作成。☒ 全体のバランスを学修する。

29～30	オールウェーブ実践（50分）	50分を計測して1段目から7段目まで通して作成。☒
31～32	オールウェーブ実践(40分)	タイム内・ループ、バランスの考察。☒ 7段構成の実習、構成ごと練習。
33～34	オールウェーブ実践(40分)	タイム内・カールの考察。☒ 7段構成の実習、構成確認
35～36	オールウェーブ実践(35分)	タイム内・カールとウェーブの考察。 7段構成の展示、実習、構成確認
37～38	オールウェーブ実践(35分)	タイム短縮・バランス向上練習。☒ 実習、構成確認
39～40	【定期チェック3】中間試験 オールウェーブ実践(35分)	タイム短縮・バランス向上練習。☒ 実習、構成確認(第6，7段の理解の考察)
41～42	オールウェーブ実践(30分)	中間試験の実施。タイム内・バランス仕上がり条件考察。☒ 7段構成の展示、実習、構成確認。
43～44	オールウェーブ実践(30分)	タイム内・バランス仕上がり条件考察。☒ 7段構成の展示、構成確認。
45	オールウェーブ実践(30分)	期末試験の実施。タイム内・バランス仕上がり条件考察。☒ 7段構成の展示、構成確認。試験。

教科書・教材	成績評価の方法	評価率	授業時間外の学修
美容実習１ 公益社団法人　日本理容美容教育センター	定期チェック 定期試験	30.0% 70.0%	

作成者:田中　美紀

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
美容実習（カット）		美容学科／2年	2025／前期	実習
授業時間	回数	授業時数／単位	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60単位時間）	必須	田中美紀/水本健一/泉谷愛子/表康子/

授　業　の　概　要

美容技術の基礎、応用を実習を通して体得していく。理論と知識を活用し、裏付けのあるものにする。☒前期はワインディング技術に加え、オールウェーブセッティング技術・カッティング技術の修得の為特にカッティング技術に特化した技術を学修する。なお☒課題は、美容師国家試験課題に含まれる。

授業終了時の到達目標

国家試験の合格を念頭に置きながら、サロンワークに活用できる技術が身に付く。
衛生の技術を向上・修得を実現する。☒期的な技術チェックを受けカッティングの技術が向上する。評価基準に基づき、能力が身に付く。

実務経験有無	実務経験内容
有	田中は美容サロンで5年以上運営及び経営に従事する 泉谷・表は美容サロンで15年以上、運営及び経営に従事する

時間外に必要な学修

実習の前後には予習復習をして習熟を図ること。

回	テ　ー　マ	学修内容
1～2	国家試験第1課題 カッティング実践①	セッティング・シザーの開閉・カットを行う連動動作・シェープ
3～4	国家試験第1課題 カッティング実践②	シザーズ開閉 ガイドにあわせて切る
5～6	国家試験第1課題☒ カッティング実践③	シザーズ開閉 パネルの角度を決めてガイドを意識して切る
7～8	国家試験第1課題☒ カッティング実践④	ブロッキング20分。国家試験課題レイヤーカットの作業手順の説明。レイヤーカットの技術展示・実習（ブロッキング、アウトライン、第3ブロッ
9～１０	国家試験第1課題☒ カッティング実践⑤	ブロッキング15分。国家試験課題レイヤーカットの作業手順の説明。レイヤーカットの技術展示・実習（～第２ブロック、第1ブロック、フェイスラ
11～12	国家試験第1課題☒ カッティング実践⑥	ブロッキング10分。国家試験課題レイヤーカットの作業手順の説明。レイヤーカットの技術展示・実習（～フェイスライン、フロント、サイド）
13～14	国家試験第1課題☒ カッティング実践⑦	ブロッキング10分。国家試験課題レイヤーカットの作業手順の説明。レイヤーカットの技術展示・実習（～チェックカット）
15～16	国家試験第1課題☒ カッティング実践⑧	全頭カット 点と点、線と線のつながり向上を意識する。
17～18	国家試験第1課題 カッティング実践⑨80分	タイム80分、切り残し、つながり、バランス考察 （ヘムライン、ブロック毎、長さ）
19～20	国家試験第1課題 カッティング実践⑩70分	タイム70分、切り残し、つながり、バランス考察 （ヘムライン、ブロック毎、長さ）
21～22	国家試験第1課題 カッティング実践⑪60分	タイム60分、切り残し、つながり、バランス考察 （ヘムライン、ブロック毎、長さ）
23～24	国家試験第1課題 カッティング実践⑫55分	タイム55分、切り残し、つながり、バランス考察 （ヘムライン、ブロック毎、長さ）
25～26	国家試験第1課題 カッティング実践⑬50分	タイム50分、切り残し、つながり、バランス考察 （ヘムライン、ブロック毎、長さ）
27～28	国家試験第1課題 カッティング実践⑭45分	タイム45分、切り残し、つながり、バランス考察 （ヘムライン、ブロック毎、長さ）

29～ 30	国家試験第1課題 カッティング実践⑮45分	タイム45分、切り残し、つながり、バランス考察 （ヘムライン、ブロック毎、長さ）

教科書・教材	成績評価の方法	評価率	授業時間外の学修
美容実習１ 公益社団法人　日本理容美容教育センター	期末試験 中間試験	70.0% 30.0%	

作成者:田中　美紀

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
美容実習 （まつ毛エクステンション）		美容学科／2年	2025／前期	実習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30単位時間）	必須	田中美紀

授　業　の　概　要
まつ毛エクステンション…まつ毛エクステンションについての基礎知識を学修。衛生管理を知ることで、美容技術者としての責任と、お客様の目元を触らせていただくという意識を育む。

授業終了時の到達目標
まつ毛エクステンション…アイリストとしての最低限の理論を学び、正しい姿勢や装着の技術が身につく

実務経験有無	実務経験内容
有	田中は美容サロンで5年以上運営及び経営に従事する

時間外に必要な学修
実習の前後には予習復習をして習熟を図る

回	テ　ー　マ	内　　容
1	まつ毛エクステンションの概論 用具　実習	まつ毛エクステンションの歴史、トラブルの事例を学修する。備品・道具について学修する。ワゴンセッティングを学修する。
2	用具について 実習	用剤と材料について学修　グルー・リムーバー・人工毛は特に詳しく　ホルムアルデヒド等の有害物質の発生について説明できる。
3	衛生管理・保健 実習	消毒方法について・眼について・眼のまわりの病気について学修する。 シートにて装着練習・装着位置
4	皮膚　まつ毛に関して 実習	皮膚・まつ毛に関して学修する つけまつ毛にて装着練習
5	ツイーザーの扱い方 実習	まつ毛のかき分け練習
6	装着とリムービング 実習	リムービングのデモ・講義 エクステンション装着やリムービングの技術を学修する。
7	講義・実習	ツイザーの角度・持ち方注意 人工毛の摘まみ方・グルーの取り方
8	講義・実習	ツイザーの角度・持ち方注意 人工毛の摘まみ方・グルーの取り方
9	講義・実習	リムーバーの塗布とオフ(量・やり方・手順・注意) ブロアーの正しい使い方
10	筆記確認テスト・実習	筆記テスト・装着練習・リムービング練習
11	実習	装着練習・リムービング練習
12	実習	装着練習・リムービング練習
13	実習	装着練習・リムービング練習

14	実習	装着練習・リムービング練習
15	実習・実技確認テスト	装着練習・リムービング練習・実技確認テスト

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
まつ毛エクステンション…美容技術理論2（日本理容美容教育センター監修）	確認テスト1 確認テスト2	50.0% 50.0%	

作成者:田中　美紀

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
美容実習（国家試験課題）		美容学科／2年	2025／後期	実習
授業時間	回数	授業時数／単位	必須・選択	担当教員
90分	195回	13単位（390単位時間）	必須	田中美紀/水本健一/泉谷愛子/表康子

授　業　の　概　要

〇オールウェーブセッティング/技術の条件、全体のバランス、フィンガーウェーブ構成、ピンカール構成、ピニングの状態
〇ワインディング/技術の条件、ロッドの種類、配列、方向性、ステムの角度、巻き収め
〇カッティング/技術の条件、カットラインの繋がり、長さの正確さ
〇衛生技術/モデルウィッグ、身なり、用具類、試験実施中、試験終了後の衛生技術習得

授業終了時の到達目標

オールウェーブセッティング・ワインディング・カッティングの3課題技術を習得することで、現場の基礎技術が身に付く。衛生技術の向上、身なりの衛生・身体の衛生・用具類の衛生を項目ごとに理解でき、現場の基礎技術が身に付く。

実務経験有無	実務経験内容
有	田中は美容サロンで5年以上運営及び経営に従事する 泉谷・表は美容サロンで15年以上運営及び経営に従事する 水本は美容サロンの店長として5年以上サロンの運営及び経営に従事する。

時間外に必要な学修

実習の前後には予習復習をして習熟を図ること。

回	テ　ー　マ	学修内容
1	国家試験対策 衛生試験対策	国家試験課題の衛生試験についての説明。 道具の準備とセッティングについて
2	国家試験対策 衛生試験対策	国家試験課題の衛生試験についての説明。 道具の準備とセッティングについて
3	国家試験対策　第2課題 オールウェーブ実践(25分)①	タイム残り1分で仕上げる。全体バランス向上練習 7段構成の展示
4	国家試験対策　第2課題 オールウェーブ実践(25分)②	タイム残り1分で仕上げる。全体バランス向上練習 7段構成の展示
5	国家試験対策　第2課題 ワインディング(20分)①	タイム残り1分で仕上げる。 未完成部分がない
6	国家試験対策　第2課題 ワインディング(20分)②	タイム残り1分で仕上げる。 未完成部分がない
7	国家試験対策　第2課題 ワインディング(20分)③	タイム残り1分で仕上げる。 未完成部分がない
8	国家試験対策　第1課題 カッティング実践(40分)①	きれいで正確なカットライン・つながり・切り残し無し。
9	国家試験対策　第1課題 カッティング実践(40分)②	きれいで正確なカットライン・つながり・切り残し無し。
10	国家試験対策　第2課題 オールウェーブ実践(25分)③	タイム残り1分で仕上げる。全体バランス向上練習 ウェーブ構成
11	国家試験対策　第2課題 ワインディング(20分)④	タイム残り1分で仕上げる。全体バランス向上練習 未完成部分がない・巻き残しがない
12	国家試験対策　第2課題 ワインディング(20分)⑤	タイム残り1分で仕上げる。全体バランス向上練習 未完成部分がない・巻き残しがない
13	国家試験対策　第1課題 カッティング実践(40分)③	きれいで正確なカットライン・つながり・切り残し無し。
14	国家試験対策　第1課題 カッティング実践(40分)④	きれいで正確なカットライン・つながり・切り残し無し。

15	国家試験対策　第1課題 カッティング実践(40分)⑤	きれいで正確なカットライン・つながり・切り残し無し。
16	国家試験対策　第1課題 カッティング実践(40分)⑥	きれいで正確なカットライン・つながり・切り残し無し。
17	国家試験対策　第2課題 ワインディング(20分)⑥	タイム残り1分で仕上げる。全体バランス向上練習 未完成部分がない・巻き残しがない・シンメトリー
18	国家試験対策　第2課題 ワインディング(20分)⑦	タイム残り1分で仕上げる。全体バランス向上練習 未完成部分がない・巻き残しがない・シンメトリー
19	国家試験対策　第2課題 ワインディング(20分)⑧	タイム残り1分で仕上げる。全体バランス向上練習 未完成部分がない・巻き残しがない・シンメトリー
20	国家試験対策　第2課題 オールウェーブ実践(25分)④	タイム残り1分で仕上げる。全体バランス向上練習 ウェーブ構成
21	国家試験対策　第2課題 オールウェーブ実践(25分)⑤	タイム残り1分で仕上げる。全体バランス向上練習 ウェーブ構成、頭部の横1/3・縦7段のバランス確認。
22	国家試験対策 衛生試験対策	タイム残り1分で仕上げる。全体バランス向上練習 7段構成の展示、ウェーブ構成、頭部の縦1/3確認。
23	国家試験対策　第2課題 ワインディング(20分)⑨	タイム残り1分で仕上げる。全体バランス向上練習 未完成部分がない・巻き残しがない・シンメトリー・面の艶
24	国家試験対策　第1課題 カッティング実践(35分)⑦	きれいで正確なカットライン・つながり・切り残し無し。 時間短縮
25	国家試験対策　第1課題 カッティング実践(35分)⑧	きれいで正確なカットライン・つながり・切り残し無し。 時間短縮
26	国家試験対策　第1課題 カッティング実践(35分)⑨	きれいで正確なカットライン・つながり・切り残し無し。 時間短縮、作業速度をあげる
27	国家試験対策　第1課題 カッティング実践(33分)⑩	きれいで正確なカットライン・つながり・切り残し無し。 時間短縮、作業速度をあげる
28	国家試験対策　第1課題 カッティング実践(33分)⑪	きれいで正確なカットライン・つながり・切り残し無し。 時間短縮、作業速度をあげる
29	国家試験対策　第2課題 ワインディング(20分)⑩	タイム残り1分で仕上げる。全体バランス向上練習 未完成部分がない・巻き残しがない・シンメトリー・面の艶
30	国家試験対策　第1課題 カッティング実践(32分)⑫	パネルの数と位置の確認・徹底
31	国家試験対策　第2課題 ワインディング(20分)⑪	ブロッキングの見直し
32	国家試験対策　第1課題 カッティング実践(32分)⑬	パネルの角度の徹底・セクションの境界位置におけるカットラインのつながり
33	国家試験対策 衛生試験対策	タイム残り1分で仕上げる。全体バランス向上練習 7段構成の展示、ウェーブ構成、頭部の縦1/3確認。
34	国家試験対策　第2課題 ワインディング(20分)⑫	ブロッキングの見直し
35	国家試験対策　第1課題①(30分)	パネルの角度の徹底・セクションの境界位置におけるカットラインのつながり
36	国家試験対策　第2課題①	試験センターが開示している審査マニュアルの審査番号1～6までを徹底する
37	国家試験対策　第2課題②	試験センターが開示している審査マニュアルの審査番号1～6までを徹底する
38	国家試験対策　第1課題②(28分)	全体の展開図を理解する

39	国家試験対策　第1課題③(28分)	全体の展開図を理解する
40	国家試験対策　第2課題③	審査マニュアルの審査番号7を徹底する 個人によって仕上がりにばらつきやすいところになってくる
41	国家試験対策　第2課題④	審査番号7 W-ロッドの方向性とステムの角度・AW-フィンガーウェーブ構成
42	国家試験対策　第2課題⑤	審査番号7 W-ロッドの方向性とステムの角度・AW-フィンガーウェーブ構成
43	国家試験対策　第2課題⑥	審査番号7 W-ロッドの方向性とステムの角度・AW-フィンガーウェーブ構成
44	国家試験対策　第1課題④(27分)	頭部が球体であることを理解する 作業位置に正対する　正しい作業姿勢を意識する
45	国家試験対策　第1課題⑤(27分)	頭部が球体であることを理解する 作業位置に正対する　正しい作業姿勢を意識する
46	試験	卒業見込み判定試験 第１課題30分＋オールウェーブ25分
47	試験	卒業見込み判定試験 第１課題30分＋オールウェーブ25分
48	衛生	自己採点と改善点、他者採点と改善点の考察する。 実技練習の実施。
49	衛生	自己採点と改善点、他者採点と改善点の考察する。 実技練習の実施。
50	国家試験対策　第2課題⑦	審査マニュアルの審査番号8・9を徹底する 個人によって仕上がりにばらつきやすいところになってくる
51	国家試験対策　第2課題⑧	審査番号8　W-輪ゴムの掛け方とロッドの巻き収め状態・ AW-ピンカール構成・ピニング
52	国家試験対策　第1課題⑥(25分)	頭部が球体であることを理解する　作業位置に正対する 正しい作業姿勢を意識する　常に展開図を意識する
53	国家試験対策　第1課題⑦(25分)	頭部が球体であることを理解する　作業位置に正対する 正しい作業姿勢を意識する　常に展開図を意識する
54	国家試験対策　第2課題⑨	審査マニュアルの審査番号8・9を徹底する　個人によって仕上がりにばらつきやすいところになってくる
55	国家試験対策　第2課題⑩	審査番号8　W-輪ゴムの掛け方とロッドの巻き収め状態・ AW-ピンカール構成・ピニング
56	国家試験対策　第1課題⑧(24分)	頭部が球体であることを理解する　作業位置に正対する 正しい作業姿勢を意識する　常に展開図を意識する
57	国家試験対策　第1課題⑨(24分)	頭部が球体であることを理解する　作業位置に正対する 正しい作業姿勢を意識する　常に展開図を意識する
58	国家試験対策　第2課題⑪	審査マニュアルの審査番号7・8・9を徹底する
59	国家試験対策　第2課題⑫	W-方向性とステムの角度・輪ゴムの掛け方と巻き収め状態 AW-フィンガーウェーブ構成　・　ピンカール構成　・　ピニング
60	国家試験対策　第2課題⑬	W-方向性とステムの角度・輪ゴムの掛け方と巻き収め状態 AW-フィンガーウェーブ構成　・　ピンカール構成　・　ピニング
61	国家試験対策　第2課題⑭	W-方向性とステムの角度・輪ゴムの掛け方と巻き収め状態 AW-フィンガーウェーブ構成　・　ピンカール構成　・　ピニング
62	国家試験対策　第1課題⑩(23分)	審査マニュアルの審査番号1～4を徹底する

63	国家試験対策　第1課題⑪(23分)	審査番号5を徹底する 毛髪の長さが許容範囲内であること
64	国家試験対策　第2課題⑮	頭部が球体であることを理解する　作業位置に正対する・放射状・球体に平行線・2Dではなく3Dであることを意識する
65	国家試験対策　第2課題⑯	頭部が球体であることを理解する　作業位置に正対する・放射状・球体に平行線・2Dではなく3Dであることを意識する
66	国家試験対策　第1課題⑫(22分)	審査マニュアルの審査番号6を徹底する ヘムラインのつながり
67	国家試験対策　第1課題⑬(22分)	審査マニュアルの審査番号6を徹底する ヘムラインのつながり
68	国家試験対策　第2課題⑰	頭部が球体であることを理解する 作業位置の垂直を考える
69	国家試験対策　第2課題⑱	頭部が球体であることを理解する 作業位置の垂直を考える
70	国家試験対策　第2課題⑲	頭部が球体であることを理解する 作業位置の垂直を考える
71	国家試験対策　第2課題⑳	頭部が球体であることを理解する 作業位置の垂直を考える
72	国家試験対策　第2課題㉑	採点項目を理解し、減点されない作品作りを心掛ける
73	国家試験対策　第2課題㉒	採点項目を理解し、減点されない作品作りを心掛ける
74	国家試験対策　第2課題㉓	採点項目を理解し、減点されない作品作りを心掛ける
75	国家試験対策　第2課題㉔	採点項目を理解し、減点されない作品作りを心掛ける
76	国家試験対策　第1課題⑭(21分)	審査マニュアルの審査番号7を徹底する カットラインのつながり
77	国家試験対策　第1課題⑮(21分)	審査マニュアルの審査番号7を徹底する カットラインのつながり
78	国家試験対策　第2課題㉕	採点項目と作品を照らし合わせ、減点される可能性が高そうなところから作業の見直し・工程を理解する・修正を加えていく
79	国家試験対策　第2課題㉖	採点項目と作品を照らし合わせ、減点される可能性が高そうなところから作業の見直し・工程を理解する・修正を加えていく
80	国家試験対策　第1課題⑯(20分)	審査マニュアルの審査番号8を徹底する 左右シンメトリー
81	国家試験対策　第1課題⑰(20分)	審査マニュアルの審査番号8を徹底する 左右シンメトリー
82	国家試験対策　第2課題㉗	時間配分を考える
83	国家試験対策　第2課題㉘	バランスの良い時間配分を行い、作業が荒い部分を生み出さないようにする
84	衛生・実技授業1 （審査項目）実技・顔面拭き取り1分	第一課題の準備から試験終了までの衛生の採点項目を学ぶ
85	衛生・実技授業2 （審査項目）実技・顔面拭き取り1分	第一課題の準備から試験終了までの衛生の採点項目を学ぶ
86	衛生・実技授業3 （審査項目）実技・顔面拭き取り1分	第二課題の準備から試験終了までの衛生の採点項目を学ぶ

87	衛生・実技授業4 （審査項目） 実技・顔面拭き取り1分	第二課題の準備から試験終了までの衛生の採点項目を学ぶ
88	練習と模擬試験(中間試験) 第1課題20分+第2課題20分・25分	国家試験の対しての理解度・習熟度・向き合い方の確認
89	練習と模擬試験(中間試験) 第1課題20分+第2課題20分・25分	国家試験の対しての理解度・習熟度・向き合い方の確認
90	衛生・実技授業5 （審査項目） 実技・顔面拭き取り1分	技術の条件から他者採点と改善点を考察する。 衛生上の取り扱いを考察。
91	衛生・実技授業6 （審査項目） 実技・顔面拭き取り1分	自分の足りない技術・知識を学び補う
92	衛生・実技授業7 （審査項目） 実技・顔面拭き取り1分	自分の足りない技術・知識を学び補う
93	衛生・実技授業8 （審査項目） 実技・顔面拭き取り1分	自分の足りない技術・知識を学び補う
94	衛生・実技授業9 （審査項目） 実技・顔面拭き取り1分	技術の条件から他者採点と改善点を考察する。 衛生上の取り扱いを考察。
95	衛生・実技授業10 （審査項目） 実技・顔面拭き取り1分	自己採点と改善点・他者採点と改善点の考察。 規定タイム内で行う、自己チェックの説明と考察する。
96	対策授業1	苦手なところやよく失敗するところは、なぜできないかしっかり考察する
97	対策授業2	苦手なところやよく失敗するところは、なぜできないかしっかり考察する
98	対策授業3	作業ポイントがうまくいかない原因は、他の個所に原因がある可能性も考えられるので作業をさかのぼって見直す
99	対策授業4	作業ポイントがうまくいかない原因は、他の個所に原因がある可能性も考えられるので作業をさかのぼって見直す
100	対策授業5	作業ポイントがうまくいかない原因は、他の個所に原因がある可能性も考えられるので作業をさかのぼって見直す
101	対策授業6	作業ポイントがうまくいかない原因は、他の個所に原因がある可能性も考えられるので作業をさかのぼって見直す
102	対策授業7	作業ポイントがうまくいかない原因は、他の個所に原因がある可能性も考えられるので作業をさかのぼって見直す
103	対策授業8	作業ポイントがうまくいかない原因は、他の個所に原因がある可能性も考えられるので作業をさかのぼって見直す
104	対策授業9	作業ポイントがうまくいかない原因は、他の個所に原因がある可能性も考えられるので作業をさかのぼって見直す
105	対策授業10	作業ポイントがうまくいかない原因は、他の個所に原因がある可能性も考えられるので作業をさかのぼって見直す
106	対策授業11	作業ポイントがうまくいかない原因は、他の個所に原因がある可能性も考えられるので作業をさかのぼって見直す
107	対策授業12	作業ポイントがうまくいかない原因は、他の個所に原因がある可能性も考えられるので作業をさかのぼって見直す
108	対策授業13	作業ポイントがうまくいかない原因は、他の個所に原因がある可能性も考えられるので作業をさかのぼって見直す
109	対策授業14	作業ポイントがうまくいかない原因は、他の個所に原因がある可能性も考えられるので作業をさかのぼって見直す
110	対策授業15	ひとりで解決できない疑問は他者に聞き、見識を広める

111	対策授業16	ひとりで解決できない疑問は他者に聞き、見識を広める
112	対策授業17	ひとりで解決できない疑問は他者に聞き、見識を広める
113	対策授業18	ひとりで解決できない疑問は他者に聞き、見識を広める
114	対策授業19	ひとりで解決できない疑問は他者に聞き、見識を広める
115	対策授業20	ひとりで解決できない疑問は他者に聞き、見識を広める
116	対策授業21	ひとりで解決できない疑問は他者に聞き、見識を広める
117	対策授業22	ひとりで解決できない疑問は他者に聞き、見識を広める
118	対策授業23	ひとりで解決できない疑問は他者に聞き、見識を広める
119	対策授業24	ひとりで解決できない疑問は他者に聞き、見識を広める
120	対策授業25	受験者役と試験管役を二人ペアで行う 見られる緊張感に慣れること・採点項目を頭に叩き込むこと
121	対策授業26	受験者役と試験管役を二人ペアで行う 見られる緊張感に慣れること・採点項目を頭に叩き込むこと
122	対策授業27	受験者役と試験管役を二人ペアで行う 見られる緊張感に慣れること・採点項目を頭に叩き込むこと
123	対策授業28	受験者役と試験管役を二人ペアで行う 見られる緊張感に慣れること・採点項目を頭に叩き込むこと
124	対策授業29	受験者役と試験管役を二人ペアで行う 見られる緊張感に慣れること・採点項目を頭に叩き込むこと
125	対策授業30	受験者役と試験管役を二人ペアで行う 見られる緊張感に慣れること・採点項目を頭に叩き込むこと
126	対策授業31	受験者役と試験管役を二人ペアで行う 見られる緊張感に慣れること・採点項目を頭に叩き込むこと
127	対策授業32	受験者役と試験管役を二人ペアで行う 見られる緊張感に慣れること・採点項目を頭に叩き込むこと
128	対策授業33	受験者役と試験管役を二人ペアで行う 見られる緊張感に慣れること・採点項目を頭に叩き込むこと
129	対策授業34	技術の条件から他者採点と改善点を考察する。 衛生上の取り扱いを考察。
130	対策授業35	技術の条件から他者採点と改善点を考察する。 衛生上の取り扱いを考察。
131	対策授業36	自己採点と改善点・他者採点と改善点の考察。 規定タイム内で行う、自己チェックの説明と考察する。
132	対策授業37	自己採点と改善点・他者採点と改善点の考察。 規定タイム内で行う、自己チェックの説明と考察する。
133	対策授業38	自己採点と改善点・他者採点と改善点の考察。 規定タイム内で行う、自己チェックの説明と考察する。
134	対策授業39	自己採点と改善点・他者採点と改善点の考察。 誰が見ても減点できない作品作りの徹底

135	対策授業40	自己採点と改善点・他者採点と改善点の考察。 誰が見ても減点できない作品作りの徹底
136	対策授業41	自己採点と改善点・他者採点と改善点の考察。 誰が見ても減点できない作品作りの徹底
137	対策授業42	自己採点と改善点・他者採点と改善点の考察。 誰が見ても減点できない作品作りの徹底
138	対策授業43	自己採点と改善点・他者採点と改善点の考察。 誰が見ても減点できない作品作りの徹底
139	対策授業44	自己採点と改善点・他者採点と改善点の考察。 誰が見ても減点できない作品作りの徹底
140	対策授業45	自己採点と改善点・他者採点と改善点の考察。 誰が見ても減点できない作品作りの徹底
141	対策授業46	自己採点と改善点・他者採点と改善点の考察。 誰が見ても減点できない作品作りの徹底
142	対策授業47	全体バランス向上、構成考察する。苦手克服・精度を高める
143	対策授業48	全体バランス向上、構成考察する。苦手克服・精度を高める
144	対策授業49	全体バランス向上、構成考察する。苦手克服・精度を高める
145	対策授業50	全体バランス向上、構成考察する。苦手克服・精度を高める
146	対策授業51	全体バランス向上、構成考察する。苦手克服・精度を高める
147	対策授業52	全体バランス向上、構成考察する。苦手克服・精度を高める
148	対策授業53	全体バランス向上、構成考察する。
149	対策授業54	全体バランス向上、構成考察する。
150	対策授業55	全体バランス向上、構成考察する。
151	対策授業56	全体バランス向上、構成考察する。
152	対策授業57	全体バランス向上、構成考察する。
153	対策授業58	全体バランス向上、構成考察する。
154	対策授業59	全体バランス向上、構成考察する。
155	対策授業60	全体バランス向上、構成考察する。
156	対策授業61	全体バランス向上、構成考察する。
157	対策授業62	全体バランス向上、構成考察する。
158	対策授業63	全体バランス向上、構成考察する。

159	対策授業64	全体バランス向上、構成考察する。
160	対策授業65	全体バランス向上、構成考察する。
161	対策授業66	全体バランス向上、構成考察する。
162	対策授業67	衛生・実技においてハプニングや予期せぬトラブルがあった場合に備えシミュレーションを行う
163	対策授業68	衛生・実技においてハプニングや予期せぬトラブルがあった場合に備えシミュレーションを行う
164	対策授業69	衛生・実技においてハプニングや予期せぬトラブルがあった場合に備えシミュレーションを行う
165	対策授業70	衛生・実技においてハプニングや予期せぬトラブルがあった場合に備えシミュレーションを行う
166	対策授業71	衛生・実技においてハプニングや予期せぬトラブルがあった場合に備えシミュレーションを行う
167	対策授業72	衛生・実技においてハプニングや予期せぬトラブルがあった場合に備えシミュレーションを行う
168	練習と模擬試験(期末試験) 第1課題20分+第2課題25分	技術の条件から他者採点と改善点を考察する。 衛生上の取り扱いを考察。
169	練習と模擬試験(期末試験) 第1課題20分+第2課題25分	技術の条件から他者採点と改善点を考察する。 衛生上の取り扱いを考察。
170	対策授業73	模擬試験で、改善するポイントが絞られたので減点箇所を集中的に練習
171	対策授業74	模擬試験で、改善するポイントが絞られたので減点箇所を集中的に練習
172	対策授業75	模擬試験で、改善するポイントが絞られたので減点箇所を集中的に練習
173	対策授業76	国家試験の本番を想定した通しの練習を行う。 直すべき箇所が少なくなってきた。今までの取り組みに自信を持つ
174	対策授業77	国家試験の本番を想定した通しの練習を行う。 直すべき箇所が少なくなってきた。今までの取り組みに自信を持つ
175	対策授業78	国家試験の本番を想定した通しの練習を行う。 直すべき箇所が少なくなってきた。今までの取り組みに自信を持つ
176	対策授業79	国家試験の本番を想定した通しの練習を行う。 直すべき箇所が少なくなってきた。今までの取り組みに自信を持つ
177	対策授業80	国家試験の本番を想定した通しの練習を行う。 直すべき箇所が少なくなってきた。今までの取り組みに自信を持つ
178	対策授業81	国家試験の本番を想定した通しの練習を行う。 直すべき箇所が少なくなってきた。今までの取り組みに自信を持つ
179	対策授業82	国家試験の本番を想定した通しの練習を行う。 不安を取り除く
180	対策授業83	国家試験の本番を想定した通しの練習を行う。 不安を取り除く
181	対策授業84	国家試験の本番を想定した通しの練習を行う。 不安を取り除く
182	対策授業85	国家試験の本番を想定した通しの練習を行う。 不安を取り除く

183	対策授業86	国家試験の本番を想定した通しの練習を行う。 不安を取り除く
184	対策授業87	国家試験の本番を想定した通しの練習を行う。 現状維持
185	対策授業88	国家試験の本番を想定した通しの練習を行う。 現状維持
186	対策授業89	国家試験の本番を想定した通しの練習を行う。 現状維持
187	対策授業90	国家試験の本番を想定した通しの練習を行う。 現状維持
188	対策授業91	国家試験の本番を想定した通しの練習を行う。 現状維持
189	対策授業92	国家試験の本番を想定した通しの練習を行う。 現状維持
190	対策授業93	国家試験の本番を想定した通しの練習を行う。 練習は本番のようにを心掛ける
191	対策授業94	国家試験の本番を想定した通しの練習を行う。 練習は本番のようにを心掛ける
192	対策授業95	国家試験の本番を想定した通しの練習を行う。 練習は本番のようにを心掛ける
193	対策授業96	国家試験の本番を想定した通しの練習を行う。 練習は本番のようにを心掛ける
194	対策授業97	国家試験の本番を想定した通しの練習を行う。 練習は本番のようにを心掛ける
195	対策授業98	国家試験の本番を想定した通しの練習を行う。 練習は本番のようにを心掛ける

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
美容技術理論1 公益社団法人　日本理容美容教育センター	中間試験 期末試験	50.0% 50.0%	

作成者:水本健一

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
サロンワーク応用(総合)		美容学科／2年	2025／前期	実習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60単位時間)	必須	表　康子/水本 健一

授　業　の　概　要

サロンでの学外実習を通じ、美容師の仕事の実態を知る。
現場での職場体験を通じ、美容師に必要なスキルを把握し、今後の学修に活かす。

授業終了時の到達目標

美容師の仕事に必要なスキルを理解し、今後の学校生活において自己が改善すべき課題、高めるべきスキルについて理解する。

実務経験有無	実務経験内容
有	表はサロンで15年以上、サロンの運営及び経営に従事する 水本は美容サロンの店長として5年以上サロンの運営及び経営に従事する。

時間外に必要な学修

毎日の実習の振り返りをその日のうちに行う

回	テ　ー　マ	内　　容
1～2	学外実習導入	学外実習を受ける際の注意点、着眼点について整理し、自身の目標を設定する。
3～6	学外実習1日目	現場でのサロンワークを通じて実践力を身につける。 サロンにおける仕事の内容・流れを理解する。
7～10	学外実習２日目	1日目の反省点を振り返り、気づきの幅を増やす。 積極的に声をかけ、仕事をもらう姿勢を重視する。
11～14	学外実習３日目	２日までを振り返り、仕事の質を高める。 任された仕事を責任を持ってやり遂げる。
15～16	学外実習４日目	３日までを振り返り、仕事の質を高める。 任された仕事を責任を持ってやり遂げる。
17～18	学外実習５日目	４日までを振り返り、仕事の質を高める。 任された仕事を責任を持ってやり遂げる。
19～20	学外実習振り返り	学外実習の振り返りから、今後の自分の課題を把握する。
21～22	カラー・ブリーチ①	ウィッグにてファッションカラー塗布練習
23～24	カラー・ブリーチ②	ウィッグにてブリーチ剤塗布練習
25～26	ウィービング	ウィッグにて
27～28	グレイシャンプー①	乳化・シャンプー・トリートメント・ブローの学修
29～30	グレイシャンプー②	乳化・シャンプー・トリートメント・ブローの学修

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
美容技術理論 公益財団法人日本理容美容教育	期末試験 実習・実技評価	70.0% 30.0%	授業の前後には予習、復習して習熟を図る。

作成者:水本　健一

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
美容総合技術(カット応用)		美容学科／2年／ ヘアスタイリスト専攻	2025／通年	実習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30単位時間)	選択	表　康子/水本 健一/金田沙樹

授　業　の　概　要

サロン業務で使われるカット技術と理論を習得する。
就職した際に学ぶであろうカット、サロン内で信頼されるアシスタント、お客様に支持されるスタイリストになる為の身につけるべき技術の応用に向けヘアースタイルの構成や流行・スタイリング合わせを学修する。

授業終了時の到達目標

ヘアスタイルの構成、展開図、毛量調整や質感、ヘアスタイリングの方法が身につく
ヘアデザインを開発する基本的な素養が身につく。

実務経験有無	実務経験内容
有	表はサロンで15年以上、サロンの運営及び経営に従事する 水本は美容サロンの店長として5年以上サロンの運営及び経営に従事する。 金田は美容サロンで2年以上従事する

時間外に必要な学修

実習の前後には予習復習をして習熟を図ること。

回	テ　ー　マ	内　　容
1～2	野沢カット・ミディアムレイヤー 予習	構成・展開図・デモンストレーション カット実践　展開図を描き　頭の丸み理解し 引きだす角度を理解していく。
3～4	野沢ゼミ・ミディアムレイヤー	学校長による、課題のデモンストレーション デモの後、課題の実践、学修する。
5～6	野沢カット・前下がりライン 予習	構成・展開図・デモンストレーション。カット実践　展開図を描き前下がりラインを最初から最後まで通してカット、前下がりラインを学修する。
7～8	野沢ゼミ・前下がりライン	学校長によるデモンストレーション 間近でデモを見ながら、質問学修する。
9～10	野沢カット・ベリーショート・ ツーブロック 予習	構成・展開図・デモンストレーション カット実践　展開図を描き前下がりラインを最初から最後まで通してカット、前下がりラインを学修する。
11～12	野沢ゼミ・ベリーショート	学校長によるデモンストレーション 間近でデモを見ながら、質問学修する。
13～14	野沢ゼミ・ツーブロック	学校長によるデモンストレーション 間近でデモを見ながら、質問し学修する。
15	特別講師:野沢道生学校長検定	ジュニアスタイリスト検定を実施し・合格者にはデイプロマ発行。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
野沢道生　スタイルブック	確認テスト 期末テスト	30.0% 70.0%	

作成者:表　康子

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
美容総合技術 （アシスタント実務Ⅱ）		美容学科／2年 ヘアスタイリスト専攻	2025/通年	実習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	45回	3単位（90単位時間）	選択	水本　健一/表　康子

授　業　の　概　要
美容室でのアシスタントの役割を理解し、アシスタント業務を修得する。 チームでサロンワークを実施することにより、サロンにおけるチームワークを学修する。 ひとりではなく、複数人が関わりながらお客様をもてなすことで、接客面、スタッフ同士の連携などの気づ

授業終了時の到達目標
接客業務、特にアシスタントの業務内容を理解し、実際の場で活用できる。☒ お客様に対する気配りの在り方が身に付く。☒

実務経験有無	実務経験内容
有	水本は美容サロンの店長として５年以上サロンの運営及び経営に従事する。 表はサロンで１５年以上サロンの運営及び経営に従事する

時間外に必要な学修
実習の前後には予習復習をして習熟を図ること。

回	テ　ー　マ	内　　容
1～2	学内サロンオープンに向けて①	学内サロンの振り返り・改善点・課題を検討する
3～4	サロン開設に向けての準備	提供するメニュー内容の考案、メニュー表の作成 内装・小物・等の準備
5～6	学内サロンオープンに向けて②提案	接客☒ープレ・提案・相モデル☒ ヘッドスパ、サイドシャンプー☒ドライ、ブロー
7～8	学内サロンオープンに向けて③提案	接客☒ープレ・提案・相モデル☒ ヘッドスパ、サイドシャンプー☒ドライ、ブロー
9～10	学内サロンオープンに向けて④提案	接客☒ープレ・提案・相モデル☒ ヘッドスパ、サイドシャンプー☒ドライ、ブロー
11～12	学内サロンオープンに向けて⑥	接客☒ープレ・提案・相モデル☒ ヘッドスパ、サイドシャンプー☒ドライ、ブロー
13～14	学内サロンオープンに向けて⑦	接客☒ープレ・提案・相モデル☒ ヘッドスパ、サイドシャンプー☒ドライ、ブロー
15～16	学内サロンオープンに向けて⑧	接客☒ープレ・提案・相モデル☒ ヘッドスパ、サイドシャンプー☒ドライ、ブロー
17～18	学内サロンオープンに向けて⑨	チームでサロンワークに向けての最終チェック行い、実践に向けた目標を設定する。
19～20	学内サロンオープンに向けて⑩	接客☒ープレ・提案・相モデル☒ ヘッドスパ、サイドシャンプー☒ドライ、ブロー
21～22	学内サロンオープンに向けて⑪	接客☒ープレ・提案・相モデル☒ ヘッドスパ、サイドシャンプー☒ドライ、ブロー
23～24	学内サロンオープンに向けて⑫	接客☒ープレ・提案・相モデル☒ ヘッドスパ、サイドシャンプー☒ドライ、ブロー
25～26	学内サロンオープンに向けて⑬	サロンワークを実施する。サロンワークの振り返り、お客様アンケートを含めて次回に向けての改善点・課題を検討する
27～28	学内サロンオープンに向けて⑭	接客☒ープレ・提案・相モデル☒ ヘッドスパ、サイドシャンプー☒ドライ、ブロー

回	テ　ー　マ	内　　容
29～30	学内サロンオープンに向けて⑮	接客☒ープレ・提案・相モデル☒ ヘッドスパ、サイドシャンプー☒ドライ、ブロー
31～32	学内サロンオープンに向けて⑯	接客☒ープレ・提案・相モデル☒ ヘッドスパ、サイドシャンプー☒ドライ、ブロー
33～34	初級スタイリスト検定に向けて①	履修した8スタイルの中から1スタイルが検定課題となる ミディアムレイヤー
35～36	初級スタイリスト検定に向けて②	履修した8スタイルの中から1スタイルが検定課題となる 前下がりライン
37～38	初級スタイリスト検定に向けて③	履修した8スタイルの中から1スタイルが検定課題となる ベリーショート
39～40	初級スタイリスト検定に向けて④	履修した8スタイルの中から1スタイルが検定課題となる ツーブロック
41～42	保護者感謝会に向けて①	保護者感謝会に向けて
43～44	保護者感謝会に向けて②	保護者感謝会に向けて
45	保護者感謝会に向けて③	保護者感謝会に向けて

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
美容技術理論☒ 公益財団法人日本理容美容教育センター☒	取組姿勢 達成度合い お客様満足度	80.0% 10.0% 10.0%	

作成者:泉谷　愛子

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
美容総合技術（ブライダルスタイリスト実務Ⅱ）		美容学科／2年 ブライダルヘアメイク専攻	2025／後期	実習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30単位時間）	選択	泉谷　愛子

授　業　の　概　要

ブライダルスタイリストとしてコンセプトウエディングを理解し、新郎新婦の希望するテーマに沿ったスタイルを提案するための知識・スキルを学修する
2年間の集大成として、自分がデザインする作品の制作・発表を実施する。

授業終了時の到達目標

コンセプトに沿ったヘアメイクのスタイル提案ができる。
チームで取り組むことにより、チームワークのスキルを向上する。
自分自身のイメージを作品として表現できるようになる。

実務経験有無	実務経験内容
有	美容サロンで15年以上運営及び経営に従事する

時間外に必要な学修

作品作りに向けた準備を行う

回	テ　ー　マ	内　　容
1～2	コンセプト設定	チームごとに自分たちが作る作品のコンセプトを設計する。
3～4	コンセプトの具現化	設計したコンセプトに基づき、試作、作品作りのための準備行う。
5～6	作品作り・写真撮り	設計したコンセプトに基づく作品作り。 フォトウエディング形式で写真撮影
7～8	作品発表の準備	チームごとに作品発表に向けてプレゼン材料を整える （模造紙、スライドショー、映像などなど）
9～10	作品発表会	各チームでの作品発表
11～12	卒業展示に向けた作品イメージ固める	2年間の集大成として、卒業展示に向けた個々の作品イメージを固める
13～14	作品イメージの具現化	卒業展示作品作りに向けた準備
15	作品作り・写真撮り 卒業展示の準備	卒業作品の制作・写真撮影 展示作品を制作

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
アップ道具一式、メイク道具一式	作品評価 授業態度	50.0% 50.0%	

作成者:澤口　友里恵

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
美容総合技術(メイク応用Ⅱ)		美容学科／2年／ ブライダルヘアメイク専攻	2025／前期	実習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30単位時間)	必須	澤口　友里恵

授　業　の　概　要

美容師・ヘアメイクとして求められるホスピタリティやサービス、マナーを理解する。目的やテーマに合ったメイクアップを提案できる知識とメイクアップテクニックを修得する。

授業終了時の到達目標

似合わせメイク、TPOに合わせたメイクを提案する際の使用するメイクアイテムと使用方法の知識を修得する。作品作りに求められる、テーマからの想像力、発想力、感性を養う。作品作りを通して1つの作品が完成するまでの流れを知り、作品作りの奥深さを感じることが出来る。

実務経験有無	実務経験内容
有	澤口はサロンでの実務経験があり、現在はメイクアップアーティストとして活動している

時間外に必要な学修

実習の前後には予習復習をして習熟を図る

回	テ　ー　マ	学修内容
1～2	基礎知識の復習	基礎知識のおさらいを兼ねて韓国メイク デモンストレーションと相モデル実習
3～4	ベースメイク応用	美しいベース作り コントゥアリングメイク(立体的なお顔作り)
5～6	ポイントメイク応用	眉やチークで印象を操作する（グラデーション） ※次回のお題を発表(フェイスチャート)
7～8	テーマに合わせたメイク①	作ってきてもらったチャートを元に相モデル ※次回のお題を発表(フェイスチャート)
9～10	テーマに合わせたメイク②	作ってきてもらったチャートを元に相モデル ※次回のお題を発表(フェイスチャート)
11～12	テーマに合わせたメイク③	作ってきてもらったチャートを元に相モデル ※次回のお題を発表(フェイスチャート)
13～14	作品撮り	作品のイメージを発表してもらう アドバイスしてから作品作り(相モデル)
15	作品撮り	アドバイスしてから作品作り(相モデル)

教科書・教材	成績評価の方法	評価率	授業時間外の学修
メイク道具一式	作品評価	30.0%	
	期末試験	70.0%	

作成者:泉谷　愛子

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
美容総合技術（着付）		美容学科／2年 ブライダルヘアメイク専攻	2025／前期	実習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60単位時間）	選択	泉谷　愛子

授　業　の　概　要

着付けに必要な基礎知識を学ぶことにより、着付け師としての技術、技能を監修する

授業終了時の到達目標

着付け師が行う留袖着付け、浴衣着付けの技術が身につく。
SBS着付け検定2級取得を目指す。
浴衣や留袖の着付けはもちろん、着付けに関わるマナーや接客の在り方も身に付く。

実務経験有無	実務経験内容
有	美容サロンで15年以上運営及び経営に従事する

時間外に必要な学修

実習の前後には予習復習をして習熟を図ること。

回	テ　ー　マ	内　　容
1～2	着付けの概論① 着物の各部名称,帯、小物の名称	着付けの理論と技術 着物の種類と季節によって変わるマナー
3～4	襦袢の半襟をつける 着物のたたみ方①	襦袢の半襟を付け直す 洗濯してきれいなものを付ける
5～6	小物の使用方法 着物のたたみ方②	片付け方と使用方法のレクチャーと実践練習
7～8	留袖着付け① 補正作り方	体型補正（レクチャーと実践練習
9～10	留袖着付け② 補正作り方	体型補正（レクチャーと実践練習
11～12	留袖着付け②（体型補正）	体型補正（レクチャーと実践練習）
13～14	留袖着付け③	準備→補正→肌襦袢（レクチャーと実践練習）
15～16	留袖着付け④	準備→補正→肌襦袢→長襦袢（レクチャーと実践練習）
17～18	留袖着付け⑤	準備→補正→肌襦袢→長襦袢→着物（レクチャーと実践練習）
19～20	留袖着付け⑥	準備→補正→肌襦袢→長襦袢→着物→帯結び（レクチャーと実践練習）
21～22	留袖着付け⑦	準備→補正→肌襦袢→長襦袢→着物→帯結び（レクチャーと実践練習）
23～24	留袖着付け⑧	準総合的に最初から最後まで仕上げる 分からないところをピンポイントで指導していく
25～26	留袖着付け⑨	準備→補正→肌襦袢→長襦袢→着物→帯結び（レクチャーと実践練習）
27～28	留袖着付け⑩	準備から最後までタイムトライアル②

29～30	留袖着付け⑪	SBS着付け検定2級合格にのっとったタイムトライアルで実践練習

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
美容技術理論2（公益財団法人　日本理容美容教育センター） SBS着付け検定テキスト（全美連） 着付け道具一式	実習・実技評価 授業態度	80.0% 20.0%	

作成者:水本　健一

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
美容演習		美容学科／2年	2025／前期	演習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60単位時間)	必須	田中美紀/水本健一/泉谷愛子/表康子/金田沙樹

授　業　の　概　要

GBC（グローバル・ビューティー・コングレス）にも通ずる。イメージコンバージョンを使った、モデルの似合わせ技術。
一人一人個性の違いを見つけ出し、タイプ別にヘアー、メイク、衣装を考察する。
「サロンに通用する人材」をテーマに行う。美容師の幅を広げる狙いで、フォトの授業を行う。
サロンフォト、クリエイティブフォトを通し、フォトコンに参加。

授業終了時の到達目標

即戦力となる為、必要な技術の習得を実現する。
撮影技術と共にトータルビューティーの基礎を身につける事が出来る。

実務経験有無	実務経験内容
有	田中は美容サロンで5年以上運営及び経営に従事する 泉谷・表は美容サロンで15年以上運営及び経営に従事する 水本は美容サロンの店長として5年以上サロンの運営及び経営に従事する。 金田は美容サロンで2年以上従事する

時間外に必要な学修

講義ノート等により、予習・復習につとめ、授業の習熟を図ること。

回	テ　ー　マ	内　　容
1～2	クリエイティブスタイル① （ウィッグによるデモンストレーション）	イメージコンバージョンを使ったスタイル展示。 デモンストレーションで目を使った学習。
3～4	クリエイティブスタイル② （ウィッグのデザイン画を起こす）	イメージコンバージョンを使ったデザイン画作成。 目と指と頭を使って、紙に書く（スタイルブックを参照）。
5～6	クリエイティブスタイル③ （ウィッグで作ってみる）	デザイン画をもとにヘアスタイル作品作り。
7～8	クリエイティブスタイル④ （イメージを想定）	トータルバランスを考察。モデルの顔かたち、身長、その人の持つ雰囲気を合わせたデザイン。
9～10	クリエイティブスタイル⑤ （モデルを使ったデモ）	イメージコンバージョンを使ったスタイル展示。デモンストレーションにより、似合わせのテクニックを考察。
11～12	クリエイティブスタイル⑥ (ヘア・衣装・メイクのデザイン画)	イメージコンバージョンを使ったデザイン画作成。始めは2Dでヘアの設計図を起こす。
13～14	クリエイティブスタイル⑦ (モデルを使って作品作り) コンテスト	デザイン画をもとにヘアスタイル作品作り トータルバランスを考察。作品を360度から見る。 真似のない自分のバランス感覚を養う。
15～16	フォト撮影① （撮影技術を見る）	学外コンテストに向けて、デモンストレーション/解説/モデル決定。合わせて大会のコンセプトを知る。
17～18	フォト撮影② （イメージを作る）	学外コンテストに向けてモデル決定・絵コンテ作成 モデルを見て、ヘアデザイン・衣装、メイクを考える
19～20	フォト撮影③ （イメージ・作品を固める）	学外コンテストに向けて、絵コンテ最終仕上げ フォトの構図・色・バランス・加工方法を仕上げる。
21～22	フォト撮影④ （実際に撮影）	学外コンテストに向けて準備物を用意・仕込み・撮影 スマートフォンを使って撮影・加工（サロンスタイル）
23～24	フォト撮影⑤ （実際に撮影）	学外コンテストに向けて準備物を用意・仕込み・撮影 スマートフォンを使って撮影・加工（クリエイティブ①）

25～26	フォト撮影⑥ （実際に撮影）	学外コンテストに向けて準備物を用意・仕込み・撮影 スマートフォンを使って撮影・加工（クリエイティブ②）
27～28	フォト撮影⑥ （実際に撮影）	学外コンテストに向けて準備物を用意・仕込み・撮影 スマートフォンを使って撮影・加工（クリエイティブ②）
29～30	フォト撮影⑥ （コンテスト出品作品を作成）	学外コンテストに向けて準備物を用意・仕込み・撮影 撮影機材を変えて撮影。 Aグループ

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
美容実習１（公社）日本理容美容教育センター	実習・実技評価 課題・レポート	70.0% 30.0%	授業の前後には予習、復習して習熟を図る。

作成者:水本健一

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
美容総合技術		美容学科／2年 ワーキングスタディー	2025/通年	実習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	60回	4単位(120単位時間)	必須	田中美紀/水本健一/泉谷愛子/ 表康子/金田沙樹

授　業　の　概　要

美容技術の基礎、応用を実習を通して体得していく。理論と知識を活用し、裏付けのあるものにする。
サロン基礎技術修、アシスタント業務関連の技術スキルアップになる。

サロンワークに活用できる技術が身に付く。
アシスタント技術を向上・修得を実現する。定期的な技術チェックを受ける。
能力が身に付く。

実務経験有無	実務経験内容
有	田中は美容サロンで5年以上運営及び経営に従事する 泉谷・表は美容サロンで15年以上運営及び経営に従事する 水本は美容サロンの店長として5年以上サロンの運営及び経営に従事する。 金田は美容サロンで2年以上従事する

時間外に必要な学修

サロンワークにおける課題を見つけておく

回	テ　ー　マ	内　　容
1～2	カット技術 ミディアムレイヤーとブロー技術①	シザーズの開閉、カット姿勢、シェープ・スライス等の理解。レイヤースタイルの理解。デンマンの使い方修得。
3～4	カット技術 ミディアムレイヤーとブロー技術②	パネルを引き出す角度の理解。レイヤースタイルのカット技術修得。
5～6	カット技術 前下がりラインとブロー技術①	カット姿勢、シェープ・スライス、パネルを引き出す角度の理解。前下がりラインのカット技術修得。
7～8	カット技術 前下がりラインとブロー技術②	カット姿勢、シェープ・スライス、パネルを引き出す角度の理解。前下がりラインのカット技術修得。
9～10	カット技術 前下がりラインとブロー技術③	カット姿勢、シェープ・スライス、パネルを引き出す角度の理解。前下がりラインのカット技術修得。
11～12	カット技術 ベリーショートスタイル①	シザーズの開閉、カット姿勢、シェープ・スライス、パネルを引き出す角度の理解。点と点、線と線のつながりを理解、修得。
13～14	カット技術 ベリーショートスタイル②	シザーズの開閉、カット姿勢、シェープ・スライス、パネルを引き出す角度の理解。点と点、線と線のつながりを理解、修得。
15～16	カット技術 ベリーショートスタイル③	長さに合わせた刈り上げのつながりを理解、修得。
17～18	カット技術 メンズスタイル①	シザーズの開閉、カット姿勢、メンズスタイルの理解と学修
19～20	カット技術 メンズスタイル②	シザーズの開閉、カット姿勢、メンズスタイルの理解と学修
21～22	カット技術 フリースタイル①	カット技術の応用 スタイルの表現性の学修
23～24	カット技術 フリースタイル②	カット技術の応用 スタイルの表現性の学修
25～26	着付け・ヘアーアレンジ①	浴衣の着付けを学修

27～28	着付け・ヘアーアレンジ②	浴衣に似合うヘアスタイルの学修
29～30	着付け・ヘアーアレンジ③	ヘアアレンジの学修 編み方・応用の考察
31～32	着付け・ヘアーアレンジ④	ヘアアレンジの学修 似合わせを考えたヘアアレンジの考察
33～34	セイムレイヤー①	レイヤースタイルの応用を学修 カット姿勢・シザーの開閉・ラインのつながり・長さの正確性の追及を考察
35～36	セイムレイヤー②	レイヤースタイルの応用を学修 カット姿勢・シザーの開閉・ラインのつながり・長さの正確性の追及を考察
37～38	セイムレイヤー③	レイヤースタイルの応用を学修 カット姿勢・シザーの開閉・ラインのつながり・長さの正確性の追及を考察
39～40	サロンワーク①	サイドシャンプー・ブロー・マッサージ実習 相モデル
41～42	サロンワーク②	サイドシャンプー・ブロー・マッサージ実習 相モデル
43～44	サロンワーク③	バックシャンプー・ブロー・マッサージ実習 相モデル
45～46	サロンワーク④	バックシャンプー・ブロー・マッサージ実習 相モデル
47～48	サロンワーク⑤	乳化・グレイカラーシャンプー・ブロー実習 相モデル
49～50	サロンワーク⑥	乳化・グレイカラーシャンプー・ブロー実習 相モデル
51～52	ヘアカラー①	永久染毛剤塗布(ファッションカラー) 塗布・流し・ブロー
53～54	ヘアカラー②	半永久染毛料塗布(ゼロテク) 塗布・流し・ブロー
55～56	ヘアカラー③	ウィービングの学修 塗布・流し・ブロー
57～58	保護者感謝会展示作品①	クリエーションシートの作成 ウィッグで作品を制作
59～60	保護者感謝会展示作品②	ウィッグで作品の制作と仕上げ・展示準備

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
美容実習1　公益社団法人　日本理容美容教育センター	定期チェック 期末試験	30.0% 70.0%	

作成者:田中　美紀

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
美容実習 （まつ毛エクステンション）		美容学科／1年	2025／後期	実習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30単位時間）	必須	田中美紀

授　業　の　概　要
まつ毛エクステンション…まつ毛エクステンションについての基礎知識を学修。衛生管理を知ることで、美容技術者としての責任と、お客様の目元を触らせていただくという意識を育む。

授業終了時の到達目標
まつ毛エクステンション…アイリストとしての最低限の理論を学び、正しい姿勢や装着の技術が身につく

実務経験有無	実務経験内容
有	田中は美容サロンで5年以上運営及び経営に従事する

時間外に必要な学修
実習の前後には予習復習をして習熟を図る

回	テ　ー　マ	内　　容
1	まつ毛エクステンションの概論 用具　実習	まつ毛エクステンションの歴史、トラブルの事例を学修する。備品・道具について学修する。ワゴンセッティングを学修する。
2	用具について 実習	用剤と材料について学修　グルー・リムーバー・人工毛は特に詳しく　ホルムアルデヒド等の有害物質の発生について説明できる。
3	衛生管理・保健 実習	消毒方法について・眼について・眼のまわりの病気について学修する。 シートにて装着練習・装着位置
4	皮膚　まつ毛に関して 実習	皮膚・まつ毛に関して学修する つけまつ毛にて装着練習
5	ツイーザーの扱い方 実習	まつ毛のかき分け練習
6	装着とリムービング 実習	リムービングのデモ・講義 エクステンション装着やリムービングの技術を学修する。
7	講義・実習	ツイザーの角度・持ち方注意 人工毛の摘まみ方・グルーの取り方
8	講義・実習	ツイザーの角度・持ち方注意 人工毛の摘まみ方・グルーの取り方
9	講義・実習	リムーバーの塗布とオフ(量・やり方・手順・注意) ブロアーの正しい使い方
10	筆記確認テスト・実習	筆記テスト・装着練習・リムービング練習
11	実習	装着練習・リムービング練習
12	実習	装着練習・リムービング練習
13	実習	装着練習・リムービング練習

回	テ　ー　マ	内　　容
14	実習	装着練習・リムービング練習
15	実習・実技確認テスト	装着練習・リムービング練習・実技確認テスト

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
まつ毛エクステンション…美容技術理論2（日本理容美容教育センター監修）	確認テスト1 確認テスト2	50.0% 50.0%	